

大腸がん検診モデル事業 事業概要

【現状と課題】

◆がん75歳未満年齢調整死亡率(平成28年)

全部位	69.2	(全国47位)
胃がん	10.6	(全国45位)
大腸がん	14.6	(全国47位)
肺がん	15.0	(全国42位)
乳がん	12.2	(全国45位)
子宮がん	5.0	(全国29位)

◆上記死亡率の改善率(平成17年→28年)

胃がん	35.2%改善	(全国27位)
大腸がん	-20.7%悪化	(全国45位)
肺がん	8.5%改善	(全国27位)
乳がん	-5.4%悪化	(全国25位)
子宮がん	-18.5%悪化	(全国25位)

→ 全国との差が広がっている

◆がん罹患と発見時期

罹患率: 全国並みだが大腸がんは高い

発見時期: 限局(早期)の発見が少ない

→ がん検診の精度向上が必要

◆死亡年齢

男性40歳代、女性50歳代からの死亡が多い

→ 働き盛り世代対策が必要

がん死亡率減少に向けた取組が急務

【事業内容】

本県のがん死亡率の減少のために、特になん死亡率を押し上げている大腸がんについて、**がん検診の受診率を向上させるとともに、ハイリスク者のリスク検証を行う。**

【大腸がんの選定理由】

- 肺がんに次ぐ死亡者数
- 全国ワースト1の死亡率
- 早期発見による5年生存率の高さ
- 検診機関に出向かなくてもできる唯一の検診

◆モデル市町村…青森市、弘前市

◆事業期間…3年間

◆具体的なプロジェクト

1 大腸がん検診受診率の向上

大腸がん検診受診経験のない者への受診勧奨

→ **大腸がん検診キットの郵送送付と近隣施設等への提出**による受診率向上対策

【連携機関】市町村、検診機関、薬剤師会、運送業者等

2 ハイリスク者のリスク検証

大腸がん検診未受診者への検診としての内視鏡検査を実施

→ **希望者に対する内視鏡検査の実施による受診しないことのリスクの見える化**

【連携機関】国立がん研究センター、弘前大学、県立中央病院、医師会等

【事業成果】

がん死亡率
がんの早期発見・早期治療が有効



がん死亡の要因を取り除く



科学的分析に基づき、県民にがん検診の重要性、精検受診の必要性を周知



がん死亡者の減少

大腸がん検診モデル事業 ～働き盛り世代のがん死亡率減少へ～

取組1

がん死亡率の減少に向けた新たな取組

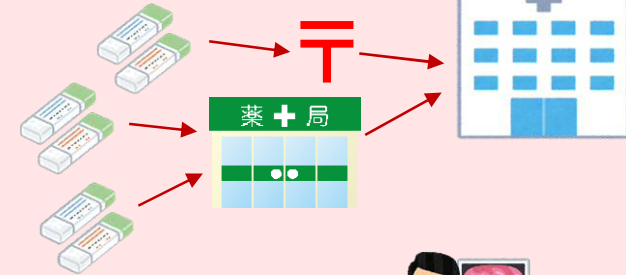
大腸がん検診未受診者にターゲットを絞った対策

青森市・弘前市・検診機関の協力による50代の過去5年間の未受診者の抽出

取組2

医療機関以外の近隣施設での随時の回収システム

青森市・弘前市・協力団体等と協力した検体回収方法の構築



取組3

大腸がん検診未受診者を対象とした大腸がん内視鏡検査の実施

国立がん研究センター・弘前大学・県立中央病院・医師会等の協力により、休日等の受診しやすい環境で全大腸内視鏡検査を実施し、未受診であることのリスクを検証



現状

- ▼がん死亡率・・・13年連続最下位 (H16～H28)
- ▼働き盛り世代 (40～50代) のがん死亡率が高い
- ▼大腸がんの死亡率が全国ワースト1位

背景

- がん検診受診率は全国並みであるのに死亡率が高い
- 大腸がん検診・・・唯一、検体のみでできる検診
- 大腸がん・・・早期発見による高い治癒率

★大腸がん検診受診率の飛躍的向上

★未受診であることのリスクの見える化

